

特殊詐欺
悪質商法

被害防止へ訪問活動

高齢者を狙った特殊詐欺や悪質商法が多発する中、川崎医療福祉大（倉敷市松島）の学生たちが高齢者宅を訪問して被害防止を訴える活動に乗り出した。犯行の手口や対策を伝

えるほか、手作りの啓発グッズを配布。岡山県消費生活センター（岡山市北区南方）によると、県内で大学生による同様の取り組みは珍しいという。（亀井良平）

川崎医福大生

高齢者に手口、対策伝える

メンバーは医療福祉マネジメント学部の田村久美准教授（医療消費者論）のゼミで学ぶ3、4年生計9人。ゼミでは2019年から県内各地の集会所で寸劇や出前講座を開き、お年寄りらに注意喚起してきた。「家にももりがちな人にもアプローチを」と直接訪問を企画し、連携している県消費生活センターの事業として行うことになった。

学生は同センターに派遣を依頼した民生委員と一緒に高齢者宅を訪ねる。まずは警察官らを装ってキャッシュカードをだまし取る預貯金詐欺や、しつこく勧誘する訪問販売について説明。「相談でホットと安心」のメッセージと消費者ホットラインの電話番号「188」を大書したカレンダーなど放課後に作ったグッズ4点を手渡す。

高齢者宅で特殊詐欺や悪質商法の被害防止を訴える学生 10月16日、岡山市北区今



初回は岡山市北区の西小学区を対象とし、10月9日を皮切りに今月2日までの計5日間、70〜90代の約40軒を巡った。10月中旬には学生2人が「おかし話」を心かけた。被害の多さを知らない方もおり、地道に活動していくと力を込めた。派遣の問い合わせは同センター（086-122-6-1019）。

「孫世代」の訪問に